

## 平成29年度第1回 蕨市子ども子育て会議 概要

1 日 時 平成29年10月24日（火） 午後3：00～午後5：00

2 会 場 保健センター2階 健康教育室

3 出席者 （敬称略）

委 員：三上恵美、池田聡美、萩原裕子、日山秀利、菊地伸、奥田十善、  
秋元知子、後藤さゆり、鶴納里々花、杉山節子、金丸謙二

事務局：関久徳（健康福祉部長）、福田望（児童福祉課長）、  
島田雅也（児童福祉課長補佐兼保育係長）

傍聴者： 0名

4 内 容

【開会】

【議題】

（1）保育園等の量の見込みと利用定員について

事務局より資料1について説明

- ・・・保育園の利用定員と量の見込みについては、計画策定当初からの乖離が生じたため昨年度の会議で数値の見直しを行った。しかし、ニーズについてはその後も右肩上がりの状況が見て取れる。このことを背景に、来年度についてもさらなる保育施設の整備が必要となるが、平成30年4月に開設を予定する認可保育園はなく、小規模保育事業が3園開設することを予定している。

また、留守家庭児童指導室についても、昨年度併せて数値の見直しを行ったが、こちらも引き続きニーズ量は高まっている。

会 長：この件について、意見のある委員は発言いただきたい。

委 員：保育園の4・5歳児には定員に余裕があるようだが、これを3歳児分の定員に回すことはできないのか。

事務局：各歳児の定員を決めるには、保育士の配置人数と教室の面積に拠ることになるが、保育士については、4歳児・5歳児の場合、児童30人に対し保育士1人、3歳の場合は20人に対して1人となる。4歳児・5歳児の30人の定員を減らしたとしても、保育士の人数は変わらず必要となるのに対し、3歳児の20人の定員を増やせば保育士は追加で1名必要となる。また、教室の面積も変えられないため、ご提案のような方法は簡単ではない。

会 長：蕨市では保育士不足の状況はどうか。

事務局：他の自治体と同様、公立・私立ともに確保が難しい状況にある。

会 長：賃金的には周辺と同様なのか。

事務局：私立の場合は、蕨市の場合、地域区分は周辺市より高い状況にあり、公定価格は高めである。

委 員：小規模保育から出なければいけない3歳児はどのようになるか。特例で小規模に残ることもあるとのことだが、今後改善は考えられるのか。

事務局：3歳からは幼稚園もあるので、2歳の保育園・小規模保育に対するニーズ量の全てが3歳のニーズ量にスライドするというわけではないが、ご指摘の点は課題として認識している。

委 員：国の基準以上に保育士の配置を増やすということは行っているのか。

事務局：公立保育園については、現場の必要に応じて加配を付けるよう努力している。ただし、保育士の確保が難しいという中で、全ての要望に応えられてはいないのが現状である。確保のためには、非正規の嘱託職員の確保やそれでも足りない場合、派遣会社への委託なども行っているが、それでも十分な確保は難しい。

委 員：私立の場合には、保育士を加配した場合の人件費に対して市が補助金を支出している。

委 員：蕨市では幼稚園でも保育園でも外国人の子どもが急増している。そのなかには日本語のしゃべれない子も多く対応に苦慮している。

事務局：保育園の場合は応諾義務があるため、外国人や日本語がしゃべれないという理由で入園を断ることはない。現実問題として保育の面で困難な点多々あるようだが、それぞれの園において現場の保育士たちの工夫で対応しているのが現状である。

会 長：今後はさらに外国人比率が増加していくことが予想されるかもしれないが、市のほうで対策は考えているのか。

事務局：実際にここ最近の外国人比率は右肩上がり大きく増加しており、今後も増加していくことが予想される。小学生に関しては、教育センターの中で日本語特別支援教室を開始したが、未就学児についても、今後方策を考えていく必要があると認識している。

会 長：この問題は、外国人本人のみでなく、そこに保育士の負担がかかることにより、全体の保育の質も低下してしまう恐れもある。何らかの対策を検討する必要があると思う。

委 員：日本語ボランティア養成講座を受講した、日本語ボランティアをうまく活用することなども考えられるのではないか。

委 員：子どもだけでなく、保護者についても日本語がしゃべれないことにより保護者会に参加することも難しいなどの問題が生じている。

会 長：留守家庭児童指導室については何かご意見はあるか。希望があれば4年生まではほぼ預かれているということで、他市に比べてもある程度充足しているのではとも思うがいかがか。

委 員：高学年になっても子どもに家のカギを持たせることに対して不安もある。

委 員：学童をやめて友達と遊ぶにしても、お金をもって遊びに行くということになり、そうした不安もある。

委 員：ただ預かるだけでなく有意義なプログラムもほしい。

事務局：民間も含め、特に夏休みなど長時間預かる際や、行事の際などは各室工夫してイベントなどを実施したりもしている。

会 長：さまざまな意見が出たが、議題（1）については、事務局の報告とおりました承してよいか。

→異議なし。

## （2）蕨市子ども・子育て支援事業計画実施状況について

事務局より資料2・3について説明

- ・・・子ども子育て支援事業計画に位置付けられている各事業についての実施状況等を報告する。各委員にはこれらの子ども子育て施策の今後の進め方等について、ご意見をいただきたい。

会 長：この件について、意見のある委員は発言いただきたい。

委 員：ハコモノはどんどんできてきているが、そこで見てくれる人員が足りない状況ではないか。ハコモノだけでなく人も育てていく必要がある。保育士だけでなく、地域の方やボランティアを活用していく必要がある。高齢者については、地域の方が見守る取り組みなども始まっているが、子どもも同様に取り組む必要があるのではないか。

会 長：保育園のニーズがこれだけあることでもわかるとおり、今は両親ともに働きに出ている家庭が多く、地域に残っている人の多くは高齢者であるという状況だと思う。一方で、様々なボランティアの活動も活発であるが、そのようなボランティアについては登録制度などの仕組みがあるのか。

事務局：蕨市では、社会福祉協議会のボランティアセンターと、市役所の市民活動推進室の「市民活動つながるバンク」という登録制度の2つがあるが、保育等の分野には充分つながっていないという感はある。人材はたくさんいるので、今後うまくつなげていくことができたらと良いと考えている。

会 長：「高齢化」「働き方改革」という世の中の流れのなかで、ボランティアを始めたいという人も増えてくると思う。それらをうまく活用するシステムを提供できれば充実した社会になってくるのではないか。

委 員：学童室については、税金を投入し施設を用意するだけでなく、塾のような要素も併せ持った民間の事業に任せることなども考えられないのか。

委 員：学童室に入室できなければ家にいるしかないというだけではなく、居場所の選択肢をいくつか用意する必要があるのではないか。

事務局：公共が提供する選択肢としては、児童館がある。学童室と違って、子どもたちは自由に集まって自由に帰っていくので、保護者がどの程度安心感を得られるかわからないが、たとえば先ほどのご意見にあったように、外に遊びに行く場合はどこでもお金が必要になるという点では、児童館は子どもたちの居場所の良い選択肢になっているのではないか。

委 員：保育園の先生も妊娠して産休・育休を取る人が多い。そのこと自体はよいことだが、新しい人に早目にきちんと引き継いでいただき、保護者にも早目に説明していただくことが、子どもや保護者にとっても安心できるのではないか。

事務局：ご意見は公立保育園での話だと思うが、本来、加配の職員等も含めて余裕を持った職員配置ができれば、担任も複数配置でき、交代等があっても影響は最小限になるのだろうが、先述とおりの保育士の配置も厳しい中で、せめて早めに保護者にアナウンスしていくなどの配慮を行っていけるよう取り組みたい。

会 長：私立の保育園については、産休代替の保育士をあらかじめ配置する場合、市が補助をするなどといったことを考えても良いのではないか。

委 員：他市では、私立保育園の保育士も参加できる研修を市が実施しており、事業者としてはとても役立っているが、蕨市では市独自で保育士等の研修を実施する考えはないか。

事務局：市側の体制の面からも、独自の研修の提供には至っていないが、研修等の必要性は認識しており、県や各団体が実施する研修の案内などは各事業者に周知を図っている。今後も引き続き積極的に周知するよう努めてまいりたい。

会 長：給料や待遇の面だけではなく、そのような研修を充実することも蕨市に保育士を呼び寄せるためには有効な手段だと思う。

委 員：公立保育園については園長同士の横のつながりはあるのか。

事務局：園長会議を1～2か月に1度開催しているほか、各園長が独自に打ち合わせの場を設けるなど日々連携している。

委 員：それぞれの園の課題や良い取り組みなどを別の園でも共有できるとよいと思う。

事務局：公立保育園については、各園長とも、5か所の保育園を何度も異動し、それぞれ

の園での経験を経て園長になっているので、各園の状況はそれぞれ十分共有していると思う。

会 長：さまざまな意見が出たが、ほかに何かご意見はあるか。

→その他意見はなし。

会 長：なければこれにて終了する。

以 上